

信州みちビジョン 基本方針等の体系表(案)その1

資料6

基本 目標	基本 方針	主要施策 (主な目的)	検討委員会や県民等からの主なご意見 ・事務局(準備会資料・アンケート) ▶委員(準備会意見) ▶意見交換会
(今後検討)	つなぐ	①コンパクトな拠点の形成支援 (持続可能な地域づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の道路改良率が低い、DID人口は減少傾向 ▷コンパクトなポイント等を、地域の実情にあわせて最適化するべき ▶拠点内の速度抑制や流入抑制が必要 ▶環状道路・放射道路の整備が必要
		②拠点をつなぐ道路ネットワーク整備 (多様な個性の地域をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤や買物等で利用する道路整備への要望が強い(近年生活圏は広域化) ・高速道路の走行台キロへ増加傾向にあり、需要は高い ▷ベーシックな地域像は、コンパクト+ネットワークだと思ふ ▶広域内外を結ぶ幹線道路(国県道)の整備が必要 ▶渋滞の解消が必要
		③地域振興を支える道路ネットワーク整備 (地域特性に応じたネットワーク形成)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少時代において、渋滞解消等による生産性向上が求められる ・高速交通網の計画がある地域は、道路を活用した地域活性化の要望が強い ▷地域性を考慮して道路整備していくことが重要である ▶道路による産業振興効果等は大きい
	まもる	④災害に強い道路網整備 (災害時に人や物資を輸送する)	<ul style="list-style-type: none"> ・近年災害等により、幹線道路が通行止めになる事象が多発している ・全国と比べ、災害による道路網分断の不安感が強い人が多い ▷災害時や緊急時に利用する道路の整備が最も大事 ▶災害時も通行できる道路整備が必要 ▶災害時の避難・医療や災害対応のための道路整備が必要
		⑤安全・安心な道路整備 (事故がなく健康で暮らすため)	<ul style="list-style-type: none"> ・事故件数は減少傾向だが、高齢者の関与する事故割合は年々増加 ・救急搬送の平均時間は全国平均並みだが、地域差が大きい ▷高齢化社会の進行に伴う道路の安全性の確保も大切だと思ふ ▶歩道整備やゾーン30など安心して歩ける対策が必要 ▶誰もが(車や人等)安全で快適な道路整備が必要
		⑥効率的な維持管理 (道路の老朽化や長寿命化への対応)	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理に対する要望は高まっている ・予防保全・予防管理への転換による、維持管理コスト抑制が必要 ▶維持管理を充実させるべき ▶安全・安心に生活できる除雪体制の確立が必要 ▶除草や樹木等の管理充実
	いかす	⑦道路を活かした観光地域づくり (交流人口の増加)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地が広く分散しており、周遊ネットワーク整備の必要性が高い ・全国に比べ「観光資源となる美しい景観の道路整備」の希望が強い ▷県外の人等に対し「景観をいかに壊さないようにするか」がニーズになる ▷周遊観光が少なく、道の駅が賑わいきれていない ▶観光地アクセス道路や周遊道路網整備が必要
		⑧多様な交通環境整備 (誰もが移動しやすい)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会等を見据え、多様な交通環境整備が必要 ・全国に比べ「歩道の設置、拡幅、段差・傾きの解消」への要望が強い ▷渋滞によってバスの定時定路線が確保できてない現状にある ▶ユニバーサルデザイン化が必要 ▶自転車道の整備が必要
		⑨快適なまちなか空間整備 (歩きたくなるまちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・DID内の改良率および歩道設置率は全国比で低い状況 ・全国調査に比べ「歩行者等が散策を楽しめる道路整備」の希望が強い ▷街中の道路のあり方をしっかり考え直していくことが重要 ▶まちづくりと連携した道路整備が必要
		⑩上記施策の進め方等)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備の方向性に対する認知度が高い人は、満足度が高い ▷高度情報化等、社会情勢の変化を見据えた視点を組み込みたい ▷住民の意見を幅広く取り入れていくことは重要だと思ふ ▶分かり易い説明・広報が必要

信州みちビジョン 基本方針等の体系表(案)その2

基本 目標	基本 方針	主要施策 (主な目的)	主な取り組み ▶:意見交換会でいただいたご意見	
			既存の取り組み(継続予定)	今後追加・拡大が考えられる取り組み (→具体例)
（ 今 後 検 討 ）	つ な ぐ	①コンパクトな拠点 の形成支援 (持続可能な地域づくり)	▶市街地道路の整備 ▶環状道路・放射道路の整備 ▶渋滞損失時間の削減 ※イライラ(移動性阻害)箇所対策含む	・ビッグデータを活用した渋滞対策 →経路情報、速度低下情報、 CO2排出量等のデータ活用 →有料道路の利用促進、 パーク&ライド促進、HOVレーン検討、 公共交通利用・モビリティマネジメント促進等
		②拠点をつなぐ 道路ネットワーク整備 (多様な個性の地域をつなぐ)	▶高速道路ネットワーク整備(ミッシングリンク解消) ※スマートIC設置含む ▶リニア駅等へのネットワーク整備 ▶地域内外や県外との拠点間道路整備 ・1.5車線の道路整備(山間部等)	・TDM「交通需要マネジメント」等の充実 ▶主要鉄道駅アクセス道路の整備
		③地域振興を支える 道路ネットワーク整備 (地域特性に応じたネットワーク形成)	▶物流や産業拠点ネットワークの整備 ・地域戦略推進型公共事業	・地域振興局と連携した横断的課題への対応 →本州中央部広域交流圏構築や 結節機能強化等 ・RESAS「地域経済分析システム」の活用 →観光流動や生産動向等、 地域特性をふまえた道路整備
	ま も る	④災害に強い道路網整備 (災害時に人や物資を輸送する)	▶緊急輸送路の強靱化(改築・耐震化・法面・落石対策等) ▶道の駅の防災機能強化 ▶豪雨への対応(異常気象時通行規制区間解消等) ▶豪雪(除融雪・堆雪帯)や大火(延焼抑制)対策	▶災害時の通行情報提供の充実 →民間や国と連携した災害時「通れるマップ」提供等 ・災害時の広域受援計画との連携 →県外との連携、防災拠点へのアクセス強化等
		⑤安全・安心な道路整備 (事故なく健康で暮らすため)	・ハラハラ(安全性要対策)箇所への対応 ▶通学路安全対策 ▶ゾーン30への整備協力 ▶踏切道の改良促進	・事故危険箇所等の情報提供 →事故危険箇所のGISへの掲載検討等 ・ビッグデータを活用した危険箇所対策 →急ブレーキ多発箇所等の分析による事前対策 ▶医療機関へのアクセス性向上 →救急搬送時間の30分カバーエリア拡大等 ・道の駅の「地域福祉の拠点」としての利用 →買い物・宅配サービス等の拠点として利用
		⑥効率的な維持管理 (道路の老朽化や長寿命化への対応)	▶インフラメンテナンスの対策強化 (長寿命化計画、定期点検等) ▶照明のLED化(コスト+環境配慮) ・ネーミングライツ活用による維持管理	・ICTを活用した維持管理 →GPS付き除雪車による効率的除雪等 ・ライフサイクルコストを考慮した 工法選定や施設更新 →防草構造、橋梁の耐候性鋼材の採用等
	い か す	⑦道路を活かした 観光地域づくり (交流人口の増加)	▶観光地の歩道グレードアッププラン ・路線愛称の活用(ビーナスライン等) ▶日本風景街道等の活用 ・インフラツーリズムの推進	▶自転車道の観光誘客への活用 →諏訪湖周等のネットワーク構築 ▶道の駅の観光振興への活用拡大 →自転車スタンド整備、情報発信等 ▶インバウンド拡大にむけた道路案内表示 →観光地名表示、英訳改善、公共サインの検討等 ▶眺望スポットの整備・情報発信や沿道美化 →道沿いや橋上へのスペース創出、 アダプトシステム充実等
		⑧多様な交通環境整備 (誰もが移動しやすい地域づくり)	▶歩道等におけるユニバーサルデザイン化 ▶自転車通行空間の整備 ▶バス路線の環境整備(バス路線の改良、停車帯の整備)	▶自転車道利用環境の充実 →路面表示、側溝グレーチングの細目化等 ▶モーダルコネク(交通モード間の連携強化) →交通結節機能強化 ▶カーシェアや自動運転への対応 →道の駅の拠点としての活用等 ・EVや水素ステーションの普及促進 →道の駅等への設置
		⑨快適なまちなか空間整備 (歩きたくなるまちづくり)	▶歩行者空間の整備 ▶景観育成指針に沿った整備 ▶無電柱化整備	▶道路空間のオープン化 →歩道のたまり機能充実、 沿道オープンスペースの活用等 ▶休憩スポットの整備 →公共空間の再構築による休憩スペースの創出 ▶まちなか緑化推進 →全国都市緑化信州フェアを契機とした 住民意識向上等

(⑩上記施策の進め方等)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業評価制度 ・環境アセスメント制度等 ・構造令等の柔軟な運用 ▶現況・開通情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路利用満足度の定期的調査 ▶広報の充実(HP、見学会など) ▶高度情報化(AI、IoT等)に則した道路行政 ▶官民協働、産官学連携、関係機関との連携
--------------	---	---